

調査事業の概要

- 調査の実施経緯、調査の主な内容
 - 広陵元気号の利便性向上を望む町民の声及び路線バスの利用者減少傾向改善のため、調査を実施。
 - 広陵町の現況、上位関連計画の整理、実態調査（住民アンケート調査、広陵元気号利用者アンケート調査）、課題整理、計画の目標と方針、計画に基づいて実施する事業をとりまとめ中。
- 調査事業を行うエリアの地域特性、公共交通の概要、問題点
 - 現在は人口増加であるが、平成28年以降は減少と推計。少子高齢化が進む。
 - 真美ヶ丘ニュータウンは大阪市のベッドタウンとしての性格が強い。
 - 町内には近鉄田原本線の箸尾駅があり、隣接する近鉄五位堂駅、大和高田駅までの路線バスが運行。町内移動は広陵元気号(2系統)が担っている。
 - 広陵元気号は、町内の集落を循環して運行しているため所要時間が長く、運行本数が少ない(1方向4時間に1便)ため、サービス向上の要望が多い。現状は無料運行しているが、サービス改善とあわせて有料化を検討する必要がある。
- 議論の概要、調査結果の概要
 - 住民アンケート調査等では、広陵元気号の有料化には一定の理解があり、公共交通を維持・活性化する方向での意見が多い。
 - 本町のまちづくりでは、役場周辺を拠点として機能集積を図ることとしている。このまちづくりとの整合を図る観点から、役場周辺を乗り継ぎ拠点として、町内全域からのアクセスを確保し、現状よりも運行便数を増やす再編方針をとりまとめている。

具体的取り組みに対する評価

- 住民アンケート調査および広陵元気号利用者アンケート調査により、幅広い世代から公共交通の利用実態、改善意向等を把握することができた。特に、多くの自由意見をいただいております。町民の公共交通への強い思いを把握することができた。
- これらの実態調査に加えて、広陵町地域公共交通活性化協議会での協議により、公共交通に関する実態、計画の考え方を検討することができた。
- 公共交通の再編案については、事務局から3案を提示し、活発な議論を行うことができた。
- これらの議論を踏まえて、再編案を修正し、パブリックコメントを経て生活交通ネットワーク計画を策定する予定である。

アピールポイント(特に工夫した点)

- アンケート調査の分析
 - 住民アンケート調査は、地域や年代によって回答の傾向が異なるため、ほぼ全ての設問について、地区別、性別、年代別に集計し、属性による特性を分析した。
 - 公共交通の再編が課題となっているため、公共交通を利用して行きたい場所を調査するなど、計画への反映を意識した調査を実施した。
- 利用実態を踏まえた再編方針の作成
 - 本町の公共交通利用者は、朝夕は通勤・通学目的で路線バスを利用し駅で鉄道に乗り換える利用、昼間は公共施設やショッピングセンターなどへの利用が多い。広陵元気号については、近鉄大和高田駅までの利用が最も多く、次いで役場等の公共施設、ショッピングセンターとなっている。町の東部地域は、路線バスがなく、朝夕の鉄道駅までのアクセスがないことから、再編に際して、このような特性を踏まえた案を複数提示し、協議していただいたうえで、案の絞込みを行った。
 - その結果、町内東部地域に南北幹線を位置づけるとともに、これを補完する町内の支線交通を運行する案を基本として、詳細を検討中である。このように、計画の明確な目標と具体案を示す中で、活発な協議を行うことができた。

参考資料

- 協議会等の開催状況
 - 第5回 協議会 (H26.7.16)
 - 調査の実施体制
 - アンケート調査の実施概要
 - 奈良交通路線バスの維持改善方針
 - 第6回 協議会 (H26.12.1)
 - アンケート調査の結果
 - 広陵町生活交通ネットワーク計画の骨子(案)
 - 奈良交通路線バスの町負担
 - 第7回 協議会 (H27.1.23)
 - 広陵町生活交通ネットワーク計画(案)
 - 自己評価(案)



生活交通ネットワーク計画等の策定に向けた方針

【地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)】
平成28年度に、広陵元気号を中心とした再編事業を実施する。広陵元気号については、上記の補助事業の適用を想定している。